

ブラジル 果実の輸出が増加するも米国の新たな関税に直面

[FreshPlaza 2025年7月17日](#)

ブラジル果実・加工品生産者輸出業者協会 (Abrafrutas) によると、ブラジルは2025年上半期に5億8,300万ドルに相当する54万6千トン以上の生鮮果実及び果実加工品を輸出した。これは、前年同期に比べ数量ベースで27.17%増、金額ベースで12.58%増となる。

同協会は、「輸出は、メロン(11万8千トン、+19.74%)、レモン(10万6,600トン、+18.71%)、マンゴー(8万7,900トン、+9.54%)、スイカ(7万3,500トン、+75.96%)が牽引した。バナナの輸出は大幅に増加した(4万3千トン、+97.27%)。アボカドの輸出は、数量が11%減少したものの3,830万ドルを生み出した。ブドウの輸出量は106%増加し、輸出額は77.48%増加して2,650万ドルに達した」としている。

同協会のギリエルメ・コエーリョ会長によると、これらの結果は、物流、天候、政治的な困難にもかかわらず、その業績を維持した生産部門の取組みを反映している。同会長はまた、2023年以降、インド、日本、中国、チリ等、7つの新しい輸出先が追加され、新たな市場の開拓が進んでいることを強調した。

コエーリョ会長は、この成長を「ブラジルの果実セクターの回復力を示す重要な兆候」と表現した。従来から輸出量が多い下半期は、現在のペースを維持するか、それを超えるものと予想されている。

しかし、米国が最近ブラジル製品に50%の関税を課したことは、事態を困難にしている。この措置は、7月末に米国市場への輸出シーズンが始まるマンゴー等の製品に直接影響する。

同協会の組織担当幹部であるルイス・ロベルト・バルセロス氏は、これが米国に輸出するマンゴーの大部分を生産するサンフランシスコバレー地域からの出荷に直接的な影響を与える可能性があることについて懸念を表明し、「1年間の現場での取組みの後、出荷シーズンの初めに聞いたこのニュースは我々を驚かせた。注文は既にキャンセルされて始めている」と述べた。

関税が維持された場合について同協会は、「計画されている事業の規模を考えると、大惨事になる可能性がある。ブラジル産マンゴーの輸出額は米国市場向けだけでも、年間約5千万ドルにのぼる」と警告した。同団体はまた、果実を他の目的地に振り替える場合にも物流上の難しさがあり、特に米国専用の技術仕様や包装デザインが困難の原因となると警告している。

同協会は、ブラジル政府と米国政府に対し、二国間貿易の中断を避けるための対話の場を持つよう求めている。これはセクターの収入、雇用、継続性を維持するために重要なことである。

執筆者: ダイアナ・サジャミ